

ちょっぴり暮らし豊かに

乗馬を楽しむ



会社の事務所から見える桜の木は、紅葉を待たずにほとんどの葉を落し、今年の残暑の厳しさを物語っているようです。
八月ごろから乗馬体験を計画していたのですが、あまりの暑さに今となってしまいました。

ホースランド安曇野さんは、弊社加工場で、大工さんが木材を加工する際にでるおが屑を、馬の寝床に利用しているご縁から乗馬体験が叶いました。

自然豊かな敷地内では、朝から颯爽と馬を走らせている人たちがいます。馬の大きさに圧倒されつつ、今日私たちにお付き合いですくれる「りんたろうくん」と「カンナちゃん」を紹介されました。



▲右：りんたろうくん(12歳・体重480kg)
左：カンナちゃん(17歳・体重400kg)
人を乗せるため、筋トレもしているそうです

乗馬コースは、ひづめを傷めないために砂地となつています。馬の大きさに圧倒されつつ、今日私たちにお付き合いですくれる「りんたろうくん」と「カンナちゃん」を紹介されました。

乗馬コースは、ひづめを傷めないために砂地となつています。馬の大きさに圧倒されつつ、今日私たちにお付き合いですくれる「りんたろうくん」と「カンナちゃん」を紹介されました。

鞍（鞍から両側に下げた足を掛ける器具）に足を掛け、鞍に乗ります。身体は力を抜いてリラックス。とはいうものの、馬が動くたび、突然走り出したらと恐怖感で緊張が走ります。

馬を前進させるには、足でお腹にチョンチョンと信号を送り、右曲がりには右の手綱を、



▲スタッフの手を離れ、自走中

左曲がりには左の手綱を優しく引きます。止まれば両手で徐々に引きま

スタップの方が手綱を放し、自分の指示で歩いてくれたのは感動的でした。コースを何回か回り、通常の歩く速さ「常歩」に慣れたところで、ジョギングで走る速さ「速歩」を体験しました。

鞍の上で身体がポンポンと跳ねます。力を抜いて足とお尻の3点でバランスを取りながら、揺れに身体を任せます。人馬一体とはほど遠い状態ですが、体温が感じられ、いたずらする仕草が可愛く感じられるようになりました。

馬はとても臆病であり人との信頼関係が大切で、群れで生活している動物であるため、調教にも上下関係をきちんと構築する必要があるとのこと。
楽しさと怖さ半々で終了してしまいましたが、風を感じながら颯爽と走ることができたらもっと楽しいだろうと思います。

最後に加工場のおが屑がどのように活用されているのか見せていただきました。ワンルームになっている部屋には、おが屑ともみ殻などを混ぜたものが床に敷かれ、ふかふかな寝床になっていました。

おが屑は水分を吸収し、いつも清潔な状態に保ってくれるのだからです。

廃棄してしまうものが、りんたろうくんやカンナちゃんのお役に立っていただんですね。

◆
ホースランド安曇野さんは、馬のほかにも小動物との触れ合うこともでき、秋のひと時をご家族で楽しめる施設です。

Information

ホースランド安曇野

ホースランド安曇野 検索

電話 0263-73-8275

https://www.horselandazumino.com/



ゆたか

vol.16

発行日：2023年10月



山共建設株式会社

創業大正10年

〒399-8102
安曇野市三郷温 3350
TEL. 0263-77-3161
https://www.yamakyo-k.com
✉ kentiku@yamakyo-k.com

山共建設会報誌「ゆたか」

発行日：二〇二三年十月二十七日

発行所：山共建設株式会社

発行人：降幡真

印刷所：(株)成進社印刷

電話：〇二六三三三一一三〇一

お客様の声

私と山共建設

中田信一郎様

(安曇野市三郷 果樹農家)

私と山共建設との出会いは、今から二十四年前の、私が大学建築学科四年生の夏であった。大学の夏休みで、佐久の川上村で高原野菜のアルバイトをしていた時、会社の説明会に行ってきたと母から呼び出されたのだ。その会社が山共建設であった。それから計3回の面接のようなものをへて、次の年の三月から、土木の見習いとしての山共生活が始まった。本来ならば土木、製材を経験した後、建築の仕事をするはずであったが、私はそのまま土木部に残り、当時盛んに行われていた下水道工事の現場作業にあたった。今から思えば良い思い出だが、当時はまさに3K(キツイ・キタナイ・キケン)そのものの仕事に大変辟易したものである。しかし、この土木部での経験が、今の私の仕事に(現在果樹農家である)大きく役に立っている。

私は八年半ほど山共建設に勤め、実家の果樹農家を継いだのであるが、この八年半の山共建設での仕事は、隠れてしまいたくなるような失敗を多く重ねてきたのであるが、自分としては精いっぱい仕事をしてきた自負がある。私は山共建設から、どのようなことがあろうと、目の前の仕事に誠心誠意向き合うことを学んだ。それは山共建設の同僚や、協力会社の多くの職人方から学んだことである。私はある時、ある大工の親方に、「ついでに(サービスで)やる仕事は、お金を

もらうわけではないから、そこそこの仕事で良いのではないか」といったところ大きく叱られたことがある。親方は、「そういう仕事こそ手を抜いてはいけないのだ、そういう仕事こそ施工は見ているのだ、自分が試されているのだ」と言った。まさにその通りで、この言葉は忘れることのない教えとして、私の中に生きている。

さて、「お客様の声」ということで、よく考えたら私もお客様の一人であった。私が山共建設在籍中に弟の家を、私が山共建設退社後に私の家、妻の家、妻の菓子製造室と、計4件の新築工事でお世話になった。どの工事でも大変丁寧で、良い建物に仕上げてもらった。携わっていたいただいた職人方、山共建設の人達全てが気持ちよく仕事にあたってもらえたと思う。私は、山共建設の建物は手作りであるから、工事に携わる職人方が気持ちよく作らなくては、本当に良い家は出来ないと思っている。

山共建設の前身は、山から木を伐り出し、製材する木材業が始まりであった。私の近くに住んでいた古老年から、若い頃に山共の仕事で木を伐りに山へ入っていたこと、そこでチェーンソーを初めて使った話を、昔聞いたことがある。前身の商いが明治二十三年創業の事、それより今まで百三十年以上の時を刻み、今の

山共建設がある。明治、大正、昭和、平成、そして令和と、それぞれの時代に即して営みの形態を模索しながら、今の山共建設があるのだろう。今、令和の時代の始まりは、建築業、設計業、土木業、不動産業を営んでいる。私が思う山共建設の変わらないことは、いつの時代も地域の「住」をつくらせてきたことだと思ふ。山共建設はただ単に建物をつくらせてきたのではない、美しい安曇野の自然に溶け込む、心地よい「住」環境そのものをつくってきた。これからの時代も、山共建設の生業が、美しい安曇野の自然に溶け込む「住」をつくるものであってほしいと思う。

(令和五年九月十九日)



▲中田信一郎様



歳時記

春夏

R5年5月12日

垣根にコウヤマキを植えました

社屋の入り口脇に植栽スペースを設けたまま植樹せずに、早二年が経過してしまいました。

常緑で樹形が美しいこと、生育が遅いなどの理由から、生垣に適したコウヤマキを植えることになりました。

コウヤマキは日本固有の針葉樹で、木曾五木の一つに数えられ、木材としても軽く水にも強く、また木の色は白く変色しにくいという特徴から、高級な風呂桶や手桶に使われているという事です。

雨に濡れた葉は光沢があり、とても緑が艶やかです。どんな垣根になるのかとても楽しみです。

植栽が済んだ入り口は、無機質なフェンスの雰囲気と和らげ社屋全体の景観がよくなりました。

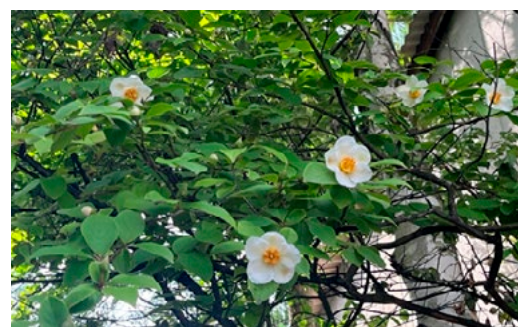


R5年6月28日

沙羅の花が咲いています

梅雨の真只中、敷地内の沙羅の木に花が咲きました。今年は今までで一番多くの花数がついたように感じられます。敷地内に植えられた樹木のなか

で、花が見られるものは、桜とこの沙羅の木の二種類。白く二重の花びらをもち、木にぼつぼつとたくさんの花を付けています。夏椿とも呼ばれ、朝開花すれば夕方にはポトリと地面に落ちてしまいます。一日精一杯咲く様子には、かないない美しさを感じます。



新入社員紹介

どうぞよろしくお願いたします。

土木部 三村 琉葵 (みむら るき)

四月から入社しました三村琉葵です。琉球の琉に向日葵の葵で、「ルキ」と読みます。

私は物作りが好きで、美術・彫刻や木工などを学んできました。始めは自分の自分以上の誰かに必要とされるものを作りたいと考えるようになりました。

社会人として、まだまだ未熟ですがたくさんの方を経験して、人のためになる仕事をしたいと思っています。



▲左：高木琉希 右：三村琉葵

土木部 高木 琉希 (たかぎ りゅうき)

四月から入社した高木琉希と申します。

社会人として第一歩をこの会社で迎えられたことを、うれしく思っています。仕事を少しずつ覚えていき、会社や地域の人のために、役に立てるよう努力していきますので、よろしくお願いたします。

建築部 藤森 秋信 (ふじもり あきのぶ)

八月より積算業務で入社いたしました、藤森秋信と申します。

これまで住宅建築関係に従事しており、前職の約二十二年間は住宅再生全般の仕事をしていました。定年退職となるのを機に採用していただきました。

出身地は諏訪市、住まいは長野市で妻とワンちゃんとの二人と一匹暮らしです(長男次男は社会人となり長女は学生で皆県外です)。

休日はTV鑑賞とワンちゃんのお相手と散歩でリフレッシュしています。



▲藤森秋信

皆さまの期待に応えられるよう精進します。今後ともよろしくお願いたします。

社員募集中
土木の現場監督・作業員を募集いたします。新卒の方、未経験の方も大歓迎。お知り合いの方で興味のある方がいらっしゃいましたらお声がけください。

6/13

終末汚水処理施設

アクアピア安曇野 見学会

建設業で働く女性の情報交換や勉強会、また親睦を深めるために設立された安曇野支部女性部会。

今回は支部の垣根を超え、松筑、大北地区の女性部会の方々と合同の見学会となりました。

アクアピア安曇野は、松本市梓川地区と明科地区を除く安曇野市の下水を処理しています。処理水量は一日、25mプール188杯分に当たるそうです。

汚水はアクアピア安曇野に流れ込むと、水と汚泥に分けられ、水は微生物



▲女性部会のみなさん



▲30日間 35℃に加温され、汚泥の有機物を減らし、量を少なくする消化タンク

の働きのよりいくつかの処理過程を経て、クリーンな水になり犀川へ放流されます。また、汚泥は水分や臭いが取り除かれ、セメントの原料として利用されます。

最終処理までには、多くの電気を必要とします。その電気を汚泥処理時に発生するメタンガスを利用して発電し、場内で使用する発電量の3分の1を賄っているとのことです。

油や灯油、水に溶けないものは微生物の活動を弱めることになり、余計な電力が必要となります。私たちが毎日

お世話になってる下水道施設。指一本で何もなかったかのように汚水が流れ、清潔な暮らしができることに感謝し、適切な利用を心掛けたいと思います。

PR



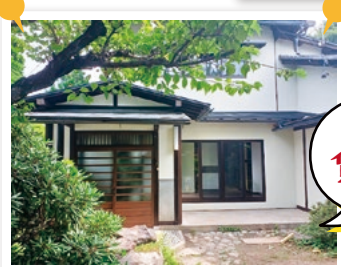
空き家の売買・賃貸など有効活用は山共へお気軽にご相談ください。

有効活用例

Before
空き家状態



After
賃貸開始



所有者様は空き家になった実家をどのようにするか悩まれていました。不動産会社へ相談したところ分譲地にする提案があったようですが、生まれ育った場所が分譲地になり周辺環境が変わるのに抵抗があったため、当社へご相談をいただきました。利便性の高い立地であったことなどからリノベーションした上での賃貸をご提案しました。今年の9月に完成した建物には、10月から店舗兼用住宅として入居者の方がお住まいになられています。

空き家を更地にして売却するだけでなく、建物を生かした売買・賃貸の需要も増えています。

お困りのことは何なりとご相談ください。 ☎0263-77-3161 ✉kentiku@yamakyo-k.com